磯辺小学校の「ムクロジ」の木

「とよはしの巨木・名木 100 選」に選定

1.　ムクロジの木の歴史

「ムクロジ」の木は、磯辺小学校のシンボルとなっている。1873 年〔明治 6〕に磯辺小学校の前身である草間学校は長栄寺本堂を仮教場として開校した。その後、1879 年〔明治 12〕に磯辺村の中心地であった駒形の丸山へ校舎を新築して移転した。現在の磯辺小学校である。

この時、学校世話役方であった山本源五郎氏が役場吏員であった山本武八氏〔1849～1891〕と相談して、新しい磯辺小学校の記念樹として「ムクロジ」の苗木を近くの山から採ってきて植えたと言われている。

校庭に植えられ 130 年、多くの子どもたちを見守り続けている名木である。

2.　「ムクロジ」の木の意味

「ムクロジ」の木は、漢字で「無患子」と書くそうである。昔から「病気をしない元気な子」「丈夫な子」の意味で例えられている木である。この意味をとって、山本氏たちも「磯辺の子どもたちに、丈夫で元気に育っていってほしい」という願いから植樹されたといわれている。

3.　みんなの木になって

現在「ムクロジ」の木には柵がはられ、自動車は進入禁止である。大木となって根を張っていくことを考えてのことである。

子どもたちにとっても身近な存在であり、ペア学年遊びや部活の集合場所になったり、絵をかく会の題材になったり、木陰で涼んだり・・・・と、いつもいろいろな場面に登場している木である。

2008 年 6 月、この木が病気になった。落葉の時期でもないのに、葉が薄汚れて黄ばみ、はらはらと散ってきたのである。原因は、3 種類の虫の発生によるものであった。7 月、たくましい生命力で病気を克服したムクロジをみんなで見上げることができた。

図鑑で調べると、「ムクロジ」は、寺などによく植えられる落葉高木で 25ｍもの大木になる。6 月に花を咲かせ、10～11 月に果実を実らせる。利用法としては、なんと、せっけんの代用としたり〔果実の皮に洗剤と同じ働きをするサポニンという成分が含まれている〕、羽根つきの球にしたりするとのことである。

学校のシンボルであるとともに、校区の名木であり、豊橋で選ばれた名木である。私たちの誇りである。　なお、校区の塩釜神社〔大山町〕の「クロガネモチ」の木も 100 選に入っている。どちらも地域の宝である。

豊橋市制施行 100 周年記念校区のあゆみ「磯辺」より

磯辺小学校　　加藤京子　・鳥田真里子